

## 外科を受診される患者さんへ

### 研究に対するご理解・ご協力のお願い

さいたま市立病院では、以下の臨床研究を実施しております。本研究は、通常の診療で得られた診療記録を調べるもので、本研究に参加されることによる患者さんへの新たなご負担は一切ありません。ご自身が本研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問があります場合、または本研究に『ご自身の診療情報を使ってほしくない』とお思いになられる場合は、後述の「問い合わせ先」までご連絡をお願いいたします。

#### 【対象となられる方】

2012年4月1日～2020年9月30日の間に、さいたま市立病院において急性上腸間膜動脈閉塞症に対する開腹血栓除去術を受けられた方

#### 【研究課題名】

「当院で経験した急性上腸間膜動脈閉塞症に対し開腹血栓除去術を行った9例の検討」

#### 【研究責任者】

さいたま市立病院 一般・血管外科 専攻医 前田 悠太郎

#### 【目的】

急性上腸間膜動脈閉塞症（SMAO）は、診断治療技術の向上によって救命率は向上しているものの、高齢者に多く、基礎疾患の合併や診断の困難さのために、依然として高い致死率が報告されています。当院では、SMAOに対して全例開腹して、腹腔内所見によって血栓除去術や腸管切除術を行い、必要に応じてsecond look operation※を追加しています。

本研究では、SMAOに対する開腹血栓除去術を受けられた患者さんの診療記録から、既往歴、CT検査所見、手術記録等を抽出・解析することで、今後の治療に役立つ情報が得られると考えています。

※初回手術で一期的に切除を施行するのではなく、状態を安定化させた後に切除すべき部位を最終判断する方法

#### 【利用するカルテ情報】

年齢、性別、既往歴、CT検査所見、手術記録 等

#### 【研究期間】

倫理委員会承認後より2021年3月10日までを予定しております。

### 【個人情報取り扱い】

本研究で収集する患者さんの診療情報は、「個人情報管理者」が責任を持って匿名化（氏名、住所、生年月日など、その記述単体で特定の患者さんを識別できる情報を削除した）データとした上で、解析を行います。患者さん個人と匿名化データを結びつける「対応表」は、当院内の鍵のかかる場所で厳重に保管・管理し院外への持ち出しは行いません。本研究の結果は学術集会「第57回日本腹部救急医学会総会」において公表することを予定しておりますが、その際にも、個人の特定ができないように十分配慮した形で行います。また、本研究のデータは、研究終了後1年間保管した後、匿名化の状態のまま廃棄します。

### 【問い合わせ先】

本研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を守って実施されます。

ご自身の情報が本研究に使用されることについてご了承いただけない場合や、途中で研究の対象から除外して欲しいとのご希望があります場合は、研究対象とは致しませんので、遠慮なく下記連絡先までお申し出ください。ご協力いただけない場合でも、患者さんやそのご家族の方が病気の治療を行う上で不利益を受けることはありませんのでご安心ください。ただし、同意を取り消された時点で既に研究結果が論文等で公表されていた場合などは、お一人分のデータを抜き出して訂正・消去することはできませんので、ご了承くださいますようお願いいたします。

本研究に関するご質問、お問い合わせがあります場合やご自身の本研究への登録の有無に関しましては、下記連絡先までお問い合わせください。

皆様のご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 連絡先

さいたま市立病院 一般・血管外科 専攻医 前田悠太郎（個人情報管理者・研究責任者）  
〒336-8522 埼玉県さいたま市緑区大字三室 2460 番地  
電話：048-873-4111（代表） FAX：048-873-5451